

# 物資荷卸しや水かきだし

## 筑波学院大生ら18人 常総でボランティア

東総川堤防決壊から9日目。水害被害を受けた常総市を支援しようと、筑波学院大生（つくば市西郷）の学生と教職員18人が18日、常総市にボランティア支援活動に向かった。電怒川東側に広がる水田の畑は一面泥をかぶり、市街地は水はほとんど引けたが、壁先に流されてきたみやび冠水した車が放置されていた住宅も目立った。

一行は午前9時過ぎ、支援物資を受け取りに支援物資の集積所になった常総市坂手町の市水海道総合体育館に到着。学生は支援物資配達トラックからの荷卸し、パケッソレの要領でトラックから荷物を下ろしていった。体育館には市民らが



支援物資を運ぶ筑波学院大学のボランティア学生たち。常総市坂手町の市水海道総合体育館。



納屋にたまった水をかき出す筑波学院大学のボランティア学生たち。常総市沖新田町。

支援物資を受け取りに、次々と訪れていた。一人、入で物資を運ぶ常総市坂手町にはボランティアが代わりに車まで荷物運んだ。市内の年配の女性は荷おむつを手配している。支援物資を配っている。孫が3人もいるのでおむつ

つが必用と語った。同僚は「おむつは10日くらいは必要だ」と話した。ボランティアは、納屋にたまった水をかき出す。市内の年配の女性は荷おむつを手配している。支援物資を配っている。孫が3人もいるのでおむつ

やシャベルなどの資機材、土の袋などが足りない」としている。その上で18日から大勢来ると思われる災害ボランティアに向けて「一週間経っても片付かないので住民は憔悴（しょうすい）している（しょうすい）している。住民の感情に配慮して接してほしい」と呼び掛けた。

常陽新聞は今回のボランティア活動に協力を依頼した。（輸出傍）